

山に登れば、お酒もうまい

1月17日付東京新聞朝刊のコラム「若い人の〇〇離れ」が面白かった。10年前、車に興味があると答えた若者は70%以上だったのに、08年では50%だそうだ。世界同時不況に若者の車離れとあつては、自動車産業の大苦戦は想像するに余りある。日本の経済を牽引してきた自動車産業だから、その失速は早晚、我々にも影響が出てきそうな気がする。麻生さん、どうするの？

若い人の、酒離れも目立っているという。三人に一人がまったく飲まないか、ほとんど飲まない、のであるそうだ。煙草などは三人に一人どころか、三人に二・五人くらい吸わないのではないかと。煙草はぼく自身も吸わないし、吸わない方がいいとは思う。しかし、酒を飲まないというのは、ちょっと淋しい。

酒にしても煙草にしても、ぼくは男子高だったから女子のことは分からないが、たいていのクラスメートは、親や先生の目を盗んで、酒や煙草をちょこっと味見してみる。ぼくの場合、酒はジンマシンが出る。煙草は口の中がいがらっぽいの、ガマンできない。ということで、不良のレッテルを貼られることなく高校を卒業した。

社会人になってからも、酒にも煙草にも強くなれなかったが、遠足倶楽部で日本百名山に登るようになると、山から下って温泉旅館に泊まることとなり、酒を飲む機会が増えたためか、「岩崎さん、最近飲むようになりましたね」と、言われるようになった。自分が飲むようになったためか、飲まない人が同席すると、ちょっと淋しい。飲んべえの気持ちが少し分かるようになった昨今である。

車離れも酒離れも煙草離れも、まあいい。恋愛離れも顕著であるそうだ。信じられないことに、面倒くさいというのが、理由であるそうだ。恋愛離れにも目をつむってしまおう。しかし、岩崎的に放置できないのは、若い人の山離れである。

再三、再四どころか再百くらい書いているが、不破哲三さんの『私の南アルプス』にも紹介されているが、「山は自分の発見」できる場所なのだ。

山に登って、息切らして苦しい思いをしてこそ、自分を発見できるのだ。テレビゲームの達人になったところで、自分の発見なんて、できやしない。離れたっていいけど、車も酒も煙草も恋愛も、興味が持てないのは、自分がないからだ。

山に登って自分を発見しよう。自分を発見すると、世界中のなにもかもがキラキラ輝いて見える。若い人ばかりではない。若くない人たちも、情報過多の現代社会で自分を見失っているように思える。元気がない。自分がなければ、酒がうまいはずがない。拙文を読んで下さっている皆さんは山好きだから、山に登れば元気になるということとはとくにご承知。

若い人を、そして若くなくても自分を見失っている人を、山に引っ張り出そうではないか。「山は自分の発見」だ。